

マザーハウス

たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。

あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。

移送・出所される方は、必ずご一報ください。

表紙：元・貴族は餃子好き♡さん

（絵のモデルは葛飾北斎の「芍薬とカナリア」）

2019

5 月号

- 2 理事長挨拶
- 4 社会の声
- 5 特別コーナー
- 9 育児日記

- 10 ささきみつおコーナー
- 11 塀の中のたより
- 19 塀の外のたより
- 21 Lovely DAYS
- 22 健康相談窓口
- 23 行事予定
- 23 お知らせ

理事長挨拶

近況報告

皆さんにご報告があります。この度、横浜市の再犯防止推進計画策定検討会の委員に就任することになりました。

皆さん、ゴールデンウィークはどのように過ごしていましたか。今回は大型連休でした。

私にとっては様々なことがありました。取材、中学生・高校生のインタビュー、マザーハウスの仲間の改宗式、溜まっていた書類の整理や手紙の返事、報告書の作成などをしました。

体調が特に悪かったので、癒しのミサにも参加しました。結局、家族との時間が取れずに、申し訳ない気持ちでいっぱいですが、せめて家族みんなで教会に行き、キリストとの交わりができることに幸せを感じています。

その「褒美なのか」、「八月に徳島の教会で講演をするともに、阿波踊りを見に来なさい」と、高松教区長である諏訪司教からの依頼がありました。家族みんなで行く予定です。

今まで、各都道府県、市区町村において、当事者が検討委員会に入っていないことに対して、一体、誰を更生・回復させたいのが理解できず、当事者抜きの計画に本気を感じられませんでした。

国や行政の自己満足であると感じていました。特に、マザーハウスのある東京都に対しては、全くやる気のないことに憤りを感じていました。

そして、この人たちに当事者の気持ちなど伝えても無駄であり、自分たちで実践していくことなのだ、と思い活動してきました。法務省も、各都道府県知事も、区市町村長も、上から見るとはしても、キリストのように、下から見ようとはしないのです。

そのことでキリストに必死に祈ってきました。聖書に「門をたたきなさい」（マタイ七章七節）とあります。そのみことばを実践した結果、今回の委員就任に繋がったのだと思います。

このこと以外にも、さいたま教区長の山野内司教との面談、広島教区長である白浜司教との面談、美祢社会復帰促進センター長との面談が実現し、東京学芸大学、岐阜保健大学、愛知学院大学において学生に体験談を話す機会も頂きました。

残念なことは、ミッションスクールが全く動かないことです。何故なのでしょう？キリストを迫害したのも、同じ信仰を持った者です。それだけ、本物のキリスト教信者がいないのではないのでしょうか。復活のキリストとはどういうことでしょうか？十字架にかかったキリストが、真つ先に「天国にいる」と告げたのは、罪を悔い改めた犯罪者です。善良な人ではなく、罪人です。それも犯罪者です。

私はそのキリストに出逢い、心から悔い改め、洗礼を授けて頂きました。だから、目の前でもがき苦しんでいる人を見ると、どんなに状況が厳しくても、手を差し伸べます。復活したキリストが私の前を共に行き、必ず門を開いてくださるからです。その十字架を知っているミッションスクールであるなら門は開かれ、真剣に子供たちのことを考え、聖書のみことばと祈りと愛を実践している学校なら招いてくださる、と私は信じています。

復活祭にあたって

今年の聖木曜日に、教皇フランシスコはどこに行き、誰の足を洗ったのでしょうか？その場所は、刑務所です。これこそ、教皇がキリストの姿を現していると感じます。何故なら、底を体験した人だからです。

私がカトリック教会に壁を感じ、もがき苦しんでいた時に、教皇フランシスコが選出され、私の長男が誕生しました。その霊名は「アッジジの聖フランシスコ」です。教皇の名を頂きました。

そして、祈りの中でキリストに訴えました。「この壁を壊してください」。その祈りの答えが、教皇に手紙を書くということでした。やがてそれは実現し、復活祭の月に、教皇フランシスコから手紙の返信が来ると共に、ロザリオが送られてきました。この手紙が、復活したキリストに触れた瞬間でした。キリストがどんな状況においても私の貧しい祈りを聞いてくださり、門を開いてくださると実感しました。

社会復帰してから今まで、私を殺す言葉をたくさん言われてきました。しかし、

聖書のみことばや、当法人の理事たち、そして、森一弘司教は、初めから私を生かす言葉を言ってく下さいました。それからマザーハウスの活動が広がるにつれて、応援してくれる方が現れてくれるようになりました。

私は闇の中にいるキリストに触れるために、少年院、刑務所にいる人たちと交流する活動を楽しんでいます。毎日、キリストに触れることができます。

先日、復活徹夜祭に仲間の一人が洗礼を授けて頂きました（彼の話は、カトリック新聞四月二十八日号に掲載されています）。教会でその洗礼式を見ていて、自分の洗礼式の時を思い出しました。その後、マザーハウスを応援してくれる方で、私が代父を務めた方が、「堅信を受けたのです。だから六月二十三日を空けておいてください」と言ってきました。今、彼は上智大学に勤務しています。

その時、神様が「上智大学の門をたたきなさい」と言われたと感じました。早速、資料を持って上智大学のカトリックセンターに行き、お願いをしました。そして、祈りの中でキリストと共に上智大学の門を徹底的に叩いて行くことを決意しました。これからは楽しみで仕方ないです。キリストが何をしてくださるのか、待ち遠しくて仕方ないです。いつも私の

貧しい祈りを聞き入れ、実現してくださるキリストと一緒に動いてくださるので、不安など全く無いし、畏れもありません。聖書も、「完全な愛は恐れを締め出します」（一ヨハネ四章十八節）と言っていきます。

受刑者の皆さんへ

受刑者の皆さん、何回も書きますが、マザーハウスの文通は女性との出会いのための場所でも無いし、女性との憩いの場所でも無いです。更生・回復のため、社会復帰のための文通なのです。勘違いしないで頂きたいです。

多くの方が、文通の意味を誤解しているようですが、社会復帰のための文通をしつかりしている方は回復し、更生の道を歩んでいます。そして、マザーハウスに来て共に活動しています。

先日、出所した人が来ました。「四日間だけ宿泊させてほしい。後は自分で何とかします」と言っていました。

私ははつきり言わせて頂きました。「身勝手極まりないことであり、自分が同じことをされたらどう思いますか？無料

で、あなたの都合で宿泊させてくれるところがあるなら、そういう場所に行った方がいいです。当法人はそのようなところではありません。本気で更生・回復したいと思って行動する人たちが来るところであり、そういう人たちの居場所です」。

また、フランススコ事業部について、「注文したが商品が届かない。何か月も待っている」という内容の手紙が来ます。大変、申し訳なく思っています。この場を借りて深くお詫び致します。

しかし、受刑者の皆さん、よく考えて頂きたいです。この事業は大半がボランティアでしています。関わっているスタッフは無給でしているのです。検索料金や送料は経費で全部無くなります。そして、皆さんからの支払いの多くは切手でされますが、本を実際に購入するには現金が必要です。切手を現金にしなければ活動できないのです。

また、スタッフはボランティアなので、フランススコ事業部を仕事にはできません。生活が各々あるのです。そして、国、行政は、活動の妨害はしますが、支援はしません。そのことを理解していますか。受刑者の皆さんが、人件費や場所や備品などの経費の全てを用意してくださる

でしたら、有給のスタッフを雇って運営していきますが、それは不可能ではないでしょうか。

四月から七月までは、法人の決算、総会の準備などがあり、僅かなボランティアスタッフでやっています。これ以外にも、毎月のだよりの発送作業もあります。そのことを理解して頂きたいです。この事業は、皆さんの更生・回復にとって重要であり、書籍を通しての学びや知識の習得、日々の生活に必要な癒しになると思い、スタッフも深夜まで作業に従事しています。



Vaticano, 22 de marzo de 2014

Querido señor Higarashi:

Recibí su carta. Gracias por esta delicadeza. Me conmovió la sencillez de una gran historia de encuentro con Cristo en el «infierno» de la prisión. Sí, también Él bajó hasta «llo», y allí nos espera, se nos adelanta. Así es de grande su misericordia, que transforma para siempre el corazón de quien alguna vez la ha reconocido.

Le agradezco también su atención a quienes, tras salir de la cárcel, no tienen dónde vivir. Dígame que rezo por ellos para que no decaiga su esperanza. Que nunca se sientan solos.

Me alegra saber que espera pronto su primer hijo, para el que tiene previsto hacerle renacer como hijo de Dios y de la Iglesia por el Bautismo. Que no le falte cariño y ternura, ejemplo y cercanía que lo lleven por el camino del bien. Y que la gracia de Dios resplandezca en él.

Como tal vez ya sabe, Japón fue mi sueño misionero de joven, y sigue muy presente en mi corazón. Su carta lo ha reavivado. Gracias por ello.

Le suplico, señor Higarashi, que rece por mí y por los frutos de mi ministerio al servicio del Santo Pueblo de Dios.

Que Jesús lo bendiga y la Virgen Santa lo cuide.

Afectuosamente

El Papa, el Papa

→ 教皇フランススコからの返信

社会の皆さんへ

最後に、毎回、お願い事ばかりで申し訳ございませんが、お米、ラーメン、缶詰等の保存食品、男女物の衣類、タオル、バスタオル、靴下、洗剤等の日用品がございましたら、寄付をお願い致します。当法人は社会復帰した元受刑者のみならず、DV、虐待の被害者たちの支援もしております。

活動を続けるために、マリアコーヒー販売や便利屋業（引越し、掃除、片付け等）の仕事も一生懸命しております。また、獄中ボランティアの方の協力のもと、獄中POSTシリーズ（獄POS）として、ポストカード、封筒、便箋の製作もしております。

そして、墨田区の事務所に通うことのできる方で、パソコンでデータ入力作業を手伝って頂けるボランティアの方を募集しております。文通ボランティアの方も募集しております。ボランティアでなくても、マリア・カフェでスタッフたちと交流してくださる方も大歓迎です。

いつも「支援を頂きましてありがとうございます。感謝です。」

社会の声

講演会の感想

★カトリック東山教会「教会だより」N0. 746に掲載されたNさんの文章をご紹介します（個人名をイニシャルに直した箇所、および○で補足を入れた箇所以外は原文ママです）。

共に生きる地球家族

〜第十二分科会に参加して〜

去る十一月二十四日、私は第四十回日本カトリック正義と平和全国集会の名古屋大会第十二分科会に参加しました。

その一週間前、「マリアコーヒー美味しだね」と言う思春期真っ只中の中学二年

生の息子に私は、こう返しました。「K（息子の名前）もそう思う？実はね、このコーヒーを製造販売している方が今週の土曜日東山教会に講演に見えるんだって。その方、三回も刑務所に入ったことがあるらしいよ。それなのに、事業を立ち上げたなんて凄くない？聞いた話だと、参加者が少ないらしいから、一緒に行かない？」。

当日、参加者は四十四名と思っていたよりも少なく、講師の五十嵐氏が講演の中で時折言われていた、「世間の元受刑者に対する偏見」の表れのように感じた。

私は、思春期の息子に対し、今複雑な気持ちを抱えているのですが、講演の中で、思春期の時の母親の様子が語られ、それが私の心に大きな衝撃を与えました。それはこんな内容でした。

五十嵐氏は、中学生の時両親が離婚し、母親の実家で暮らすことになりましたが、母親は妹ばかり可愛がり、自分は邪魔な存在なんだと思うようになっていった。また、いとこの下敷きが無くなり、同じ物を持っていた自分が取ったのではないかと叔父や叔母、母親からも疑われ、私（五十嵐氏）が「取つてない」と言っても、誰にも信じてもらえなかった。後

で下敷きが出てきた時も、誰一人、私（五十嵐氏）に謝ろうとしなかった。その時から「家族なんて信用できるものか」と思うようになった…。

私は、その話を聞いて、今の自分と五十嵐氏の母親の気持ちを重ねてみましたが、「姉ちゃん比べて出来が悪くて悪かったね」というような事をよく言います。自分では、比べたつもりはないけれど、息子はそう感じているのか。とハツとする事が度々あります。

それで、息子は自分が大事にされているという実感がいいのかと反省し、言葉や態度で伝えようとするのですが、何だかぎこちなくて、結局は、家事や看護師としての仕事をこなすのが精いっぱい、気持ちに余裕がなく、話を聞くのも上の空になってしまい、「Kごめん」の毎日なのです。

五十嵐氏の母親は、離婚して三人の子供を育てていたのですから、私以上に気持ちに余裕がなかったと思います。改めて、母親として、自分の子供を愛することの大切さと難しさを感じました。

さて、講演会の中で私が最も感銘を受けたのは、五十嵐氏が刑務所の中で日

系ブラジル人を通してキリストと出会い、マザーテレサの存在を知り更生し、自分の使命を見出し、マザーハウスを立ち上げられたということです。

過去は変えられないけれど、未来は変えられるという言葉がありますが、五十嵐氏が、受刑者の更生のために必要なビジョンを熱く語る姿に、私はキリストを見ました。

五十嵐氏に出会わなければ、私は、受刑者と呼ばれる方々を怖い人と思い、一人の人間として見る事ができなかったと思います。

そういう視点で見ると、五十嵐氏の過去の過ちは受刑者の立場を証する上で大切な過程だったのかもしれない。

そう言えば、ある時代劇の名台詞に「悪を憎んで、人を憎まず」というのがあります。なぜ、その人は、過ちを犯してしまったのかと一歩踏み込んで理解しようとする気持ちを大切にしたいと思いました。

今回の「正義と平和」全国集会のテーマに、今問われる私たちの決意とありますが、この分科会に参加して、私は、三つの決意をしたいと思います。

それは、一つ、家族を信じること、二つ、受刑者の人も一人の人間として理解される権利があることを忘れないこと、三つ、平和のために自分にできることを精一杯行うこと。

最後に、マリアコーヒーの購入に際し、お世話になっているMさんに感謝するとともに、コーヒーを飲みながら、一人でも多くの受刑者の方が更生されることを祈り続けていきたいと思っています。



Y・Tさん

特別コーナー

河野ハレのブログ

★ICBM (International Christian Bible Fellowship) の河野健牧師が発信している「河野ハレのブログ」(<https://ameblo.jp/praise-the-lord/>)より、幾つか抜粋して紹介します(一部、掲載のため縦書仕様に直した箇所があります)。

一分だけ遅刻したA君と 五分遅刻のB君

その朝は、嵐で交通機関が大変混乱しました。

二人の青年がホテルの採用試験に急ぎましたが、A君は一分遅刻、B君は五分の遅刻でした。

結果はどうだったでしょうか？五分遅れたB君が採用され、一分遅れたA君は不採用となったのです！

なぜでしょうか？その理由は、遅れたことに対する弁明の違いでした。一分遅れたA君は「たった一分だけですから」と言いました。しかし、五分遅れたB君は違いました。彼は「遅刻して、まことに申し訳ございませんでした」と答えたのです。

不採用になったA君も、別のホテルに就職しました。しかし、数年後、二人は全く違った人生を歩んでいたのです。

一円でも、百円でも、百万円でも、「盗む」ということに対して、同じように罪意識を持つ人がいます。一方、「多少ならいい」と考える人もいます。

すると、当然その生き方は違ってきました。なぜでしょうか？相対的な価値観で生きる人は人生観が麻痺してしまい、生き生きとした新鮮な生き方を失ってしまうからです！基準が人にあるからです！

逆に、限りある私たちが、限らない永遠の神の前に生きる時、時を経ることに新鮮でシャープな生き方が出来ます。なぜなら、その人は、時間も、お金も、体力や能力も、すべて神様からのプレゼント

ントであると神様に感謝して生きるからです。

今日、目の前の主を見上げながら、一つずつ感謝しつつ、一日を過ごしませんか？（参考：田中信生「輝いて生きるために」）

「あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります」（詩篇十六章十一節）

「感謝しつつ主の門に、賛美しつつ、その大庭に入れ」（詩篇百章四節）

言葉だけの悔い改めで、 新しく変えられるのか？

松岡広和牧師は以前、僧侶をされていました。二つ上にお兄様がおられたので、お寺を継ぐ必要はなかったのですが、松岡青年は何のために生きているのか、真理とは何かを知りたいと思い、自ら僧侶の道に進んだのです。

仏教系大学に入学し、仏教を学ばれ、また、できる限り修業もされました。しかし仏教について学べば学ぶほど、いろいろな疑問や矛盾を感じるようになったのです。

さらに大学院に進んで仏教を研究していましたが、その大学院に韓国から留学しに来ていた僧侶と親しくなったことがきっかけで、韓国という国に興味を持つようになりました。

松岡青年の通っていた大学は、韓国のソウルにある仏教系の大学と姉妹関係を結んでいて、交換留学生の制度がありました。一九九八年、松岡青年も交換留学生として、韓国のソウルに留学することになりました。

しかし、なぜ生きているのかという疑問が解決されていなかったで、韓国へ行っても、心の空しさは同じだったのです。

その年の暮れのことでした。ソウルで知り合った同じ日本人留学生から、友人が通う教会のクリスマス会に一緒に行こうと誘われました。

松岡青年は「教会とは初めから関係がない」と決めつけていました。しかし、韓国に来た一つの経験として、教会に行ってみてもいいのではないかとの思いから、ある小さな教会に顔を出されたのです。

ところがそれがきっかけで、その教会の聖書の勉強会に通うことになったのです。もちろん、神様を信じようとしたのではなく、韓国語の勉強にもなるし、聖

書を宗教的教養としても知ることができて、一石二鳥だと考えられたのです。

しかし、聖書を学ぼうと、だんだんとそのみことばの一つ一つに惹きつけられていきました。また、その教会の人たちは、あらゆる面で松岡青年を助けてくれたのです。そのことは外国で一人で生活している日本人にとっては、とても大きな力でした。

聖書の学びも三ヶ月ほどすると、聖書の中心的なメッセージがわかってきます。

それは、人間は誰でも、神様の前で「罪人」であり、その罪のために、イエス・キリストが十字架にかかられた、ということ。だから、悔い改めて、イエス・キリストを信じるなら、救われるということです。

しかし、松岡先生は、いくら考えても、自分が罪人であることがわかりませんでした。

ですから、イエス・キリストがご自分の罪のために十字架にかかれたと何度も聞かれても、どうしても納得できなかつたのです。

ところが、あるとき、全然実感はないけれど、ために、言葉だけでもいいから、悔い改めをしてみようと思いました。そ

して、「神様、私は罪人です。どうぞお赦してください」と言つたのです。

すると、突然、松岡先生の目から涙が急にあふれてきて、泣き始めてしまいました。そして、大きな声で泣きながら悔い改めをされました。

その瞬間、松岡先生の内面がすべて変えられました。神様はいらっしゃるといふ信仰と、聖書は神様のみことばであるという強い確信が与えられたのです！

それからは救われた喜びに満ちあふれた毎日が続いたのです。

こうして松岡青年がクリスチャンになった時、やはり多くの反対がありました。しかし、まわりからどんなに反対されても、どんなことを言われても、本当の真理を知ったという確信はびくともされませんでした。そして、仏教大学も中退して、僧侶としての道も捨てられました。

留学を終えて、日本に帰ってから、神様は何もかも捨てた松岡青年を、すべての面で守り導いてくださいました。それだけではなく、神様は松岡青年を牧師の道へと導いてくださいました。

松岡先生は言われます。

「神様はすべての人が救われ、天国に行けるようになることを願っておられるので

す。ですから私のように、僧侶として最もイエス・キリストから離れている人間ですらも救ってくださったのです」(参考引用: <http://www.21.ocn.ne.jp/~nozomi/akashi.htm>)

「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」(第一ヨハネ一章九節)

「この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。『悔い改めなさい。天の御国が近づいたから』」(マタイ四章十七節)

神様のわざが現されるために、 真っ先にすべきこと

スイスの心理学者であり、精神科医のポール・トゥルニエは自分が経験した臨床記録を記しました。

悪性の貧血を患っているある女性がいきました。彼女は半年近く病院に通い、治療を受けても、症状はますます悪化していききました。

医者は「どうすることもできないので、病院に入院して集中治療をすべきです。入院の準備をして、もう一度、病院に來なさい」と告げました。しかし、來ると言ったにもかかわらず、約束の日を守らず、病院に來ませんでした。

一週間後、彼女は顔色が非常に良くなって、病院にやってきました。貧血の検査してみると、正常値です! 「六ヶ月以上治療しても良くなかった病気が、どうして一週間で良くなりましたか?」。医者は驚いて、「いったい何があったのですか?」と聞きました。

すると「実は、私は長い間、憎んでいた人がいたのですが、数日前にその人の所に行つて赦しました」と言つのです!

悪性の貧血で長い間苦しんでいた人が、憎んでいた人を赦すや否や、すぐに治つてしまつたのです。

このように、治療と赦しは非常に関係が深いことがわかります。

ですから、もし祈りを捧げてても病気が良くならないなら、憎んでいる人がいないかどうか、心の中を一度調べてみる必要があります。もし、そのような人がいるなら、その憎んでいる人を赦すことです。

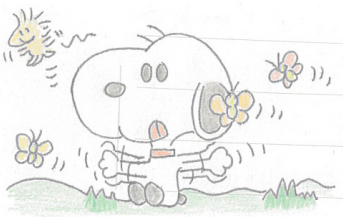
心の中で赦せば、同時に病も良くなつてしまふのです!

赦しと愛は、私たちの健康のためにも大切なことですが、神様の力を現すために、真っ先にしなければならぬことだからです。

「さばいてはいけません。そうすれば、自分もさばかれません。人を罪に定めてはいけません。そうすれば、自分も罪に定められませんか。赦しなさい。そうすれば、自分も赦されます」(ルカ六章三十七節)

「あなたがたはキリストのからだであつて、ひとりひとは各器官なのです」(第一コリント十二章二十七節)

「復讐してはならない。あなたの国の人々を恨んではならない。あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。わたしは主である」(レビ十九節十八章)



S・Tさん

怒ってはならないか?

箴言には、様々な素晴らしい教訓が語られています。怒りについては、次のように記されています。

「怒りをおそくする者は英知を増し、気の短い者は愚かさを増す」(十四章二十九節)

「激しやうい者は争いを引き起こし、怒りをおそくする者はいさかいを静める」(十五章十八節)

「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は町を攻め取る者にまさる」(十六章三十二節)等々。

それでは、怒ってはならないのでしょうか?

アメリカのユタ大学で行つた研究結果によれば、良くない夫婦関係が、健康に悪影響をもたらすということです。

多くの夫婦にとつて、年を取つてからの健康はとても重要です。しかし、夫婦の間の人間関係が良くなければ、それが健康に悪影響をもたらす原因になるということです。

研究チームは百五十組の夫婦を対象に調査しました。

その結果、わかったことは、妻が怒りを発散することができない時、怒りを発散する人より、心臓病で倒れる確率が非常に高くなる、ということでした――

ですから、結婚されている皆さん！夫婦げんかをすべきでしょうか？それとも我慢に我慢を重ね、心臓病で倒れるのがいいでしょうか？答えは自ずと明らかですね（笑）！その場でケンカすることです（笑）！怒りを抑えていると、夫は何でもないのですが、妻は心臓病で倒れてしまうのです！

怒りは発散するほうが良いということですよ！だからと言って、一日中、大声でけんかせよということではありません。

妻が抑えている怒りを発散させたければ、発散させてあげること、また、妻が不平不満を言ったら、理解をし、同情してそれを聞き入れてあげることです！

けれども、聞き続け、聞き入れることは本当に難しいことです！それでも、心臓病になって倒れては困るので、聞いた方がよいのです！けんかしても、どちらかが素早く冷静になり、相手を理解し、相手を受け入れることができるなら、最高です！

パウロはこう言っています。「怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるま

で憤ったままでいてはいけません。悪魔に機会を与えないようにしなさい」（エペソ四章二十六―二十七節）

怒りそのものは罪ではありません！怒っても罪を犯してはならないということですよ。つまり、怒りを長く継続させるならば、罪となり、悪魔の罠にかかつてしまうからです。だから、怒ったままであってはならないのです。

「力の限り、見張つて、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく」（箴言四章二十三節）

ただ聖霊様の働きによって 信じる事が出来る！

しばらく前のことです。ある有名な大学の科学者であり、医学博士である教授が教会に来ました。その人は信仰があつて来たのではなく、妻を監視するために来たのでした。

彼は決まつてこう言いました。

「私が先生のメッセージを聞いて、どう考えているか分かりますか。私はあなた

を実にかわいそうに思っています。顔つきや話し方など見ると賢い人のように見えるのに、口から出て来る話は、本当に愚かな話ばかりです。

科学や、医学から考えて、どうして乙女が妊娠して子どもを生みますか。そしてイエスは死んで三日後に復活したですって、それは一人人間が死んで三日もすれば、細胞はみな崩壊し、血も腐つてしまうのに。

「このような愚かな話を聞いて信じる人たちは、それを話す先生も実にかわいそうな人たちだなあと思つて、いつも座っていますよ」。

趙ヨンギ先生はこう言いました。

「教授、あなたは私がかわいそうだと言っていますが、私はあなたがかわいそうでなりません。あなたは人間的で経験的な知識しかありません。それであなたは目で見、耳で聞き、鼻で臭いを嗅ぎ、口で味わい、手で触るものしか信じられないのです。

しかし、あなたは天地万物を創造された父なる神が私たちに下さった偉大な真理を悟つておられないのです。あなたの霊が死んでいるので、霊の知識を知ることができないからです。そのゆえにあなたはかわいそうです」。

ところがそのときのクリスマスの日です。その教授が趙先生の部屋に座つて、しきりにハンカチで涙をふいていました。

それで趙先生は「クリスマスだと言うのにまたなぜけんかなどしたのですか」と聞きました。

すると、彼はキョトンとした顔をしてこう言ったのです。

「先生、違いますよ。今日は妻とけんかしたので泣いているではありません。先生のメッセージを聞いているうちに、突然胸が熱くなりました。そして先生の仰ることがみな信じられるようになりました。私の頭は今でも疑いで一杯なのに、心の中では『そうだ、それが正しい、牧師様の言うとおりだ』という考えで一杯になり、涙が止めど無く流れて来ましたが、でも先生、頭では信じられないのにどうしたらいいのでしょうか。私の心は完全に信じているのに」。

「このように言いながら、彼は子どものように泣き続けました。彼のかたくなな霊がこの日、救いを受けたのでした。

その後、彼は真実の信仰を持つようになり、父なる神様に感謝するようになり、みことばを疑うことなく信じるようになったのです。（参照：チヨヨンギ師「人生の道」）

人が救われるのは、説得によるのではなく、ただ聖霊の働きによるのです。

「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません」(第一コリント十二章三節)

「風(聖霊)は己が好むところを吹く」(ヨハネ三章八節 文語訳)

聖霊様に好まれる人となりましょう。

どん底の人に必要なもの

ある時、犬養道子さんはインドネシアの難民キャンプに行きました。「すべき」とは、収容の場と薬と水を与えること。はじめに、彼女はそう考えました。

ところが、一番重要なものがない限り、どん底の環境にいる人々には薬や水も受け入れられないという体験をしたのです。その重要なものとは何でしょうか？それは愛です！

親兄弟を殺され、一言も口をきかず、空を見つめたまま何も食べ物を口にしない、そんな一人の幼子がいきました。このままでは幼子は確実に死んでしまいま

す。しかし、無理やりに口をこじ開けるわけにもいかず、何もできませんでした。

そんな幼子を二日二晩抱き続けたアメリカ人のボランティア・スタッフがいきました。二日経って、その幼子は、はじめて青年の目を見つめ、そして笑ったのです。「自分を愛してくれる人がいるー」。その時から幼子は心を開きました。こうして、青年は泣きながら、薬と食べ物を与えたのです！

「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です」(第一コリント十三章十三節)。

この愛(アガペー)は一体どこにあるのでしょうか？

ヨハネは言います。「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょ。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです」(第一ヨハネ四章七〜八節)

だから私たちは、愛のルーツである神様との時間を十分にとつて、みことばを黙想し、祈ることが不可欠なのです。

理事長の奥さんによる

育児日記

最近、一君は、幼稚園が終わると先生の目を盗んで、砂場の砂を園服のポケットに入れ、自宅までの帰り道に生えている草や花に「魔法の粉」として砂をかけています。かけると大きくなるらしいです。

次女のKちゃんは、普段は天使なのですが、たまに激変します。先日、就寝中に「ママー……おきて……ちいさいふんとつてー! (怒)」と寝ている私を叩き起こし、小さい布団を渡すと「いらない!」と不機嫌で、片づけようとすると「いる!」というやり取りをずっとして、なかなか布団に入ってくれなくて困ることがありました。

この間も、一君のプールの帰りにKちゃんが転んでしまつて、そのショックで機嫌が悪くなり、しゃがみ込んで何を言っても動かないので、仕方なしに嫌

がる抱っこをして、「いやだー! おろしてー!」と泣き叫ぶKちゃんを抱えて連れて帰ってきました(汗)。

次女のRちゃんは自由奔放です。満面の笑みでお兄ちゃんお姉ちゃんの頭をおもちやで叩いて泣かせたり、鍵を、ゴミ箱の蓋をあけて捨ててしまつたり、口に輪ゴムが入っていたり、石鹸を食べていたり、石を食べそうになつたりしています!



あそぶのだいすき♪

むさきみつお 「コーナー」

* ブログ : <http://ixsasaki.ti-da.net/>

最後の五分

ある一人の若い死刑囚がいた。

死刑執行当日、刑場に登場した青年に最後の五分が与えられた。二十八年間生きてきて、最後に与えられた五分は、短いけれども、とても貴重な時間だった。

「最後の五分をどう使おうか?。」

彼は悩んだ末に決心した。自分を知っているすべての人々に対して、別れの挨拶と祈りのために二分、その日まで生かしてくださった神に対して感謝をささげて、他の死刑囚たちへ一言ずつ別れの挨拶をするために二分、残りの一分は、目に見える自然の美しさに感謝し、この地での最後の瞬間まで立たせてくれたことに感謝しよう、と。

「愛する私の家族と友よ、先に逝くことを許して下さい。どうぞ私のために泣かないで下さい。」

こう祈り始め、流れる涙をのみながら、家族や友人たちをしばし思い、別れの挨拶と祈りをして、二分が過ぎてしまった。

そして、自分自身について振り返ろうとした瞬間、「ああ!もう三分したら私の人生も終わりなのか…」と思うやいなや、目の前が真つ暗になった。過ぎてしまった二十八年間という月日を、宝石のようにして大事に過ごせなかったことに、とても後悔した。

「悔い改める時間も無いんだな…これまでなぜこんなに無駄な時間を過ごしてきたのだろうか…」

「残り一分!」という声が聞こえた。

もうこれ以上、ひどい底冷えの風も感じないだろう。裸足に伝わる冷ややかな冷気も感じないだろう。見ることも触ることも無いだろう。でも、惜しい…惜しい…。初めて知るこの世の大切さ。

「執行準備開始!」。死刑を執行する兵士たちが両側に並び、死の瞬間が近づいた。

生きたい!生きたい!もう少し!あと少しだけでも…!

「ガチャツ」。弾丸を銃に装填する音が彼の心臓を突き抜けた。

「ああ…、もう一度人生をやり直すことができたなら…」と、後悔の涙を流した。

その時だった。「止める!止める!その死刑を止める!」。急使が大声を張り上げて死刑場に駆け付けた。

まさに、銃殺刑のその直前。「皇帝陛下の寛大な慈悲」により、奇跡的に、死刑執行中止の命令が下され、間一髪、命が助かった。その代わり、「四年間のシベリア流刑」を命じられた。

その晩、死の門の敷居で戻ってきた彼は、弟に手紙を書いた。

「自分の失敗と無駄な歳月を考えると心臓から血が滲む。人生は神の贈り物なのだ…全ての瞬間は永遠の幸福であり得ることを、もつと若い時に悟っていたら、人生はもつと変わっていただろう。私はこれから『生まれ変わる』のだ!」。

九死に一生のその出来事の後、彼は死刑執行直前に残された五分間を思い出しながら、生涯、時間の貴重さを感じて生き、一日一日、瞬間瞬間を、最後の瞬間のように大事に、一生懸命生きた。その結果、彼は、『罪と罰』、『カラマーゾフの兄弟』、『未成年』など、数多く

の名作を発表し、トルストイと比較されるほどの世界の文豪として名を残した。

これは、一八四九年十二月、ロシア死刑執行所「セミョーノフスキー練兵場」で、反体制「思想犯」として死刑宣告を受けていた青年の実話である。彼こそ、後のロシアの大文豪「ドストエフスキー」であった。

極寒のシベリアの四年間、プライバシーの一切無い過酷な強制労働と拷問の中で、彼は創作活動に没頭した。文を書くのが許されなかった流刑生活では、紙の代わりに頭の中で小説を書くしかなく、すべての文を覚えていなければならぬ。

「人生は五分の連続だ!」という覚悟で、彼は創作にのめり込んだ。こうして一八八一年に世を去る時まで、彼は数々の不朽の名作を書き残したのだ。

長編小説『白痴』では、このように書かれている。

「——私に最後の五分が与えられるならば——肉親や友との別れに二分を当て——もう一度自分の人生を振り返るのに二分を当て——最後の一分は、この世の名残りに周りの自然の風景を静かに眺めたい。——いつもこの世で息をすることができる時間は、ただ五分だけだ」。

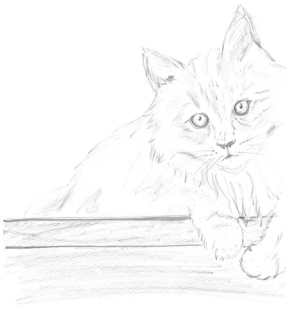
ドストエフスキーの生き様には非常な感動を覚える。人生の大切さを考え直したい。

「残された五分間」を設定して、悔いの無い人生を送りたい。最善を尽くして邁進すれば、あなたにできないことは何もない。

あなたにとって、今がとても重要な瞬間だ。聖書は、神からあなたに与えられた最高のプレゼントであり、すべて神の息吹である。聖書を読むなら、あなたは永遠の命を得ることができる。もし、この機会を逃したなら、再び永遠にこの機会はやって来ないだろう。

「今は忙しいので、後で余裕ができたなら、その時考えてみよう」という悪魔の聲に惑わされたいでほしい。

あなたの人生で、最も重要なことを、決して失わないでください。



NS50 さん「窓際のネコ」

塀の中のたより

―受刑者からのお手紙―

牛との触れ合い

A 刑 T さん

二月に、施設外教育という事で、流水見学及びお菓子の工場見学に行かせて頂きました。運が良いのか悪いのか：その日はとても天気が良く、もちろん真冬日でしたが、日差しも暖かく、風もなく、しかしそれが悪かったのか、流水は破片しか見ることが出来ませんでした。でも、遥か対岸に見えた知床半島の羅臼岳や斜里岳の真っ白い山々には、とても感動しました。自然の風景にこれほど感動できる自分に少し驚きました。一番楽しみにしていた流水を見られなかった事はとても残念でしたが、良い経験が

出来て感謝しています。そして、生きていくうちに絶対に自分の足で見に行こうと決心しました。

とにかく単調な刑務所生活の中で、良い意味でのアクセントになりました。

さて、気温が今季最高のマイナス二十八度になった日に、待ちに待った仔牛が一頭産まれました。その後も二頭、三頭と立て続けに産まれ、嬉しいニュースも続き、今月から来月にかけては、牛の出産ラッシュになりそうです。

しかし、その反面、私が一番かわいがり、また私に懐いていた牛が、朝行くと冷たくなっていました。その数日後にも、とても懐いていた牛が、休日の日の午後、エサをやり牛舎に行くと、すでに死んでいました。この二頭が死んだ時は本当にショックでした。

私は、今やっている仕事も福祉の仕事も、どこか通じるものがあると思い、作業に取り組んでいます。もちろん、牛と人間とを同じにするな、と言われそうですが、生きている命の重さに変わりはないと私は思っているし、その気持ちで作業もしています。

慣れない仕事で大変な事も多々ありますが、牛たちにもかなり癒されています。

私が携わろうとしている福祉施設の利用者の方も、なかなか自分の意思を表現できない人たちがばかりです。今やっている作業でも、牛たちは喋れないし、「痛い」「苦しい」を表現することも出来ません。目で見て、耳で聞いて判断してやるしかありません。同じ命あるもの、しっかりと手を抜くことなく作業をし、出所後の仕事に役立つようにやっていく覚悟です。

とても人に懐いている牛もたくさんいますが、中には、全く懐かないどころか、危険牛というレッテルを貼られている牛もいます。しかし、どんな牛であれ、世話をしていると可愛くなってくるものですね。

三月に入り、少しずつ雪も融け始め、作業もやり易くなってきました。私の方も少しずつ出所に近づいてきましたが、より気を引き締めていこうと思います。

福祉における私の一生の課題

(同じく、) A 刑 T さん

さて、私の方は、牛たちの出産ラッシュも少しは落ち着き始めましたが、出産

といつても嬉しいことばかりではない、という事を思い知らされました。

お返事で尋ねられた牛の死因ですが、肺炎などの病気の時もあります、原因不明という事もあります。原因不明というか、恐らくですが、牛は大きい牛で八百キログラム近い牛もいます。それで、信じられないかもしれませんが、稀に、横になると、自分の体重で起き上がれなくなる事があります。そうすると、牛の腹にガスが溜まり、そのまま死んでしまうケースが多いようです。ですから、前日元気だった牛が翌日行くと死んでいる、という時は、大体、腹がパンパンに膨れ上がっています。

先日、朝行くと、横になつて四肢をピンと伸ばして起き上がれず、涙目になつて足掻いている牛がいて、まだ中型の牛ですが、それでも四百キログラム以上はあるだろう牛を五人がかりで、やっとの思いで起き上がらせる事が出来ました。牛の目玉は少し飛び出して、しばらく目も真っ赤で、「大丈夫かな？」と心配して見ていましたが、今ではようやく元気になる、元に戻つたので安心しました。

さて、最初に「出産といつても嬉しい」とばかりではない、という事を思い知ら

された」と書いた話に戻りますが、最近生まれた中の一頭に、障害を持つて産まれた仔牛がいます。どんな障害かは詳しくは分かりませんが、恐らくは四肢が弱く、産まれてから起き上がる事が出来ません。体も小さく、寝たきりなので、親牛の乳を飲むことも出来ません。

先の事は技官の判断に任せるしかありませんが、技官の判断としては、獣医を呼んで安楽死か、このまま私たちが世話をして死んでいくのを待つか：いずれにしても「死」ということから、どのようにして死なせてやるのが一番良いのか、という話をされました。

私も含め、「どんなに手が掛かっても、面倒を見てやりたい」という人もいれば、「面倒臭え」という人間もいました。

人間らしい理由を持つて安楽死（孔子の状況を思いやつての安楽死）、というならまだしも、面倒臭えから殺しちゃえ、という意見にはちよつとショックを受けました。しかし、そう思っているのも束の間、土曜日、休日出勤してみると、もう冷たくなって息をしませんでした。

自分たちが世話をするといつても限度があります。夜を徹して世話をすることも、残業や早出をする事も出来ません。本当に悔しい事です、仕方ありません。

一寸の虫にも五分の魂とはよく云つたものです。

私が福祉の仕事を目標にしている事は、以前の手紙にも書きましたが、そのきっかけとなつたのは、東日本大震災です。話せば長くなりますが、その時、S刑務所の独房にいた私は、ニュースの映像を見て、何も手助けできない自分にとても腹が立ち、今までの罪の償いというわけではありませんが、せめて残りの人生は人の役に立つ事をしよう、と真剣に考えるようになりました。

そして、S刑務所を出所後は、介護施設に正社員として勤める事が出来ましたが、テレビではなく実体験として、様々な人間ドラマを見ることになりました。その中でも、自分自身をどうしても納得させることが出来ない事がありました。なんて言つて良いか分かりませんが、理解はしようと思つても、納得は出来ない：：というような感じでしょうか。

私は、夜勤もやっていたのですが、認知症と合わせて腎臓等にも病を持った利用者がありました。身内は姪の夫婦しかおらず、それでも時々面会（見舞い）に来ていました。本人が自分の死期が近い事を予感したのか、それとも人生が嫌になつたのか、次第に食事拒否するよ

うになり、それだけではなく、わざと吐き出したり、皿を投げたりするようになりました。もちろん薬も、口に入れても吐き出してしまいます。正直、最も手を煩わせる利用者となり、スタッフも困り果ててしまいました。

本当はいけない事です、私が夜勤の時は、好物のものを持つていき、食べさせてやつたりしていました。しかし、それもあまり食べられなくなるくらい、身体が弱つてしまいました。普段は絶対に自分の弱さを見せない人でしたが、ある日、私が夜勤で夜中に見回りに行くと、「死にたくない」と言つて声を殺して泣いていました。私は、情けないですが、声を掛けてやることすら出来ませんでした。

いよいよ死期が近いと、主治医が判断したのか、数日後、同僚スタッフから突然、「もし夜勤でKさん（その利用者の方）が苦しんでも、例え放つておいたら死んじゃうという状態になつたとしても、絶対に救急車も呼ばないように。また、自分でも助けようとしないうに。って施設長が言っていました」と言われました。ただ、主治医と施設長にだけ連絡して、後は放つておいて、との事でした。

私は言われた事が全く理解できず、何故、そんな非人間的なことをするのか、と施設長に食つて掛かりましたが、施設

長は理由を言わず、ただ「そうして下さい」と言うばかり。そこで、私が一番頼りにしている人に事情を説明し、相談すると、「それは難しい問題で、もし自分の施設で同じような状況になったとしても、同じように指示をする」という答えでした。

要するに、尊厳と尊重の問題という事です。本人や家族の意思が優先されます。特に介護の世界では、認知症を患っている方が多いので、家族の意思が尊重されます。私の言いたい事も分かるが、それを世間に認めさせるには、論文でも書いて発表するしかないだろう、と言われました。

そんな事もあったりしたので、しばらくすると私はそこを辞めて、しっかりと勉強をしようと思い、学校（訓練校）に通う事になりました。

介護における基本理念は、「自立支援」と「尊厳の保持」です。勉強をしていくうちに、自分の勝手な思い込みの知識の間違いに気付かされたり、新しい知識を覚えたりして、本当に通って良かったと思いました。

そして、Kさんの件は、なんとなく理解する事は出来るようになりましたが、どうしても、いまだに納得する事は出来ません。このことは、これから私が生き

ていく上での一生の課題になっていく、と思っています。

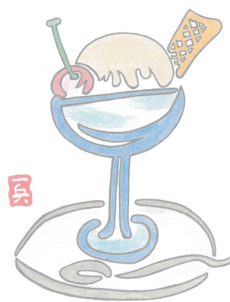
四月一日、新元号「令和」が発表され、良い事もありましたが、悲しい出来事もありました。

難産で苦しむ牛がいたのですが、いよいよどうにもならずに獣医さんに来てもらい、私たちも手伝い、出産に臨みました。本来、立つまま出産するのですが、親牛は疲れ果てたのか、もう立つ事が出来ず、横になったままの出産でした。立っている力も残っていないのですから、当然、力む（りきむ）力も残っていません。獣医さんが胎内で仔牛にヒモを掛け、みんなで引つ張り出す事になりましたが、みんなで引つ張って、ようやく仔牛が出てきた時には、すでに息を已经没有でした。何とも言えない悲しい気持ちです。

悲喜こももある生活ですが、自分自身とても勉強になっています。

カトリック生活の二月号の特集「カトリックの医療現場から」で、桜町病院で働くシスターたちの記事を読みました。自分が以前、仕事に就こうと思った時は、「利用者の気持ちに少しでも寄り添えたら」と思っていました。しかし、現実

厳しく、自分の未熟さを思い知るばかりでした。ですが、この記事を読み、このような気持ちで活動している人たちがいる事を知り、救われる思いがしました。



一兵さん

素直さと感謝

N 刑 A さん

たよりを拝見していて、「私も」と思う事もあります。結局、何も出来ない自分がいます。

せめて、今回の事件の覚醒剤について、依存という病気について、自分と向き合う為に、官本やワークブックを通して知識を高め、自分と一生を通して付き合い、断薬して、正常な社会での生活を送れるよう、毎日勉強しています。

しかし、この一部執行猶予という刑期は短いです。社会に出るのが不安です。もう六ヶ月を切ってしまいました。四度目が、社会で普通の生活が出来ず、五度目になるのではないかとクスリをやってしまうのではないかと毎日、己と葛藤しています。

キリスト教を知らないのに、五十嵐理事長、マザーハウスに頼って良いのか？仮釈放というのを僕とかが貰っているのか？猶予分も務め、満期が当り前だから！自分でバカやったんだから。人に迷惑かけて良いのか？

ずっと考えていましたが、ただ逃げているだけなのかもしれない、と思うようになりました。二年の（社会内処遇の）縛りが辛いから、と！

きつといつも、こつやつて自分の決断を楽な方向へと考えて決めてきたが為に、こんな人生になったんだと思います。

両親は、最低限の事はしてくれました。自分で潰してきてしまいました。小三の時、両親が離婚しましたが、それまで裕福でした。母子になり、悪事を繰り返し、中学から教護院に入り、高一は、父の元から留学したものの、高二で退学、帰国。

十代から少年院、二十代からは少年刑務所、刑務所：そして今は四度目の刑務所。親に申し訳ない限りです。

楽な人生は無い！と退路を断ち、マザーハウスにお世話を掛けに行きます。二年の保護観察を終える事を一つの目標に。その後、社会で普通に生きることが一番難しい事ですが、それを最大の目標として生きる覚悟で行きますので、宜しくお願いします。

キリストも分かりませんが、自分が赦しを求め続ける中で必要な事は、勉強して身に着け、吸収したいと思っています。今回頂いたたよりで理事長が書かれていたように、僕もやりたくない事がたくさんありますが、目の前にある事を、自分の持っている力の限り、一つずつ自分のペースでやります。やるようにします。回復更生のために。

今一番に出来ることは、今までできとうだった事をやることです。ずばり、素直さと感謝です。これまでは、「人の物は自分の物、人が苦しかろうが自分が良ければそれで良い！我が道を行く」でしたので、素直さと感謝を忘れずに過ごす毎日です。これだけでは甘い、と言われると思いますが、毎日過ごしてみても、苛立つ事もある時に、素直さと感謝を思い

出して自分と見つめ合う時間が、難しくも大事な時となっています。

三月に、仮面接がありました。厳しい事もたくさん言われました。プライバシーの欠片もありませんでした。仮釈放なんて：という思いが心の隅を過ぎりました。でも、こんな僕に時間を下さり、話してくれているのは、こんな僕の為なんだ、と思い、感謝の気持ちを持って、自分の為になることなんだと思つて、二時間の間、分からない事は聞き、嘘は言いたくないし、綺麗事で済ましたくないから、正直に話しました。

その結果、仮釈放が無くなっても、仕方がない。今はそう思っています。でも、自分の目標に向かって、出所まで一日一日、前進します。心が挫られました、自分の気持ちは伝えられたので、あとは口だけにならないように努めます。回復したいので！

今回は、残刑の都合上、職業訓練も教誨もクラブも出来ませんが、刑務所側から出される覚醒剤教育も、押し付けのように感じられますが、心、考え方を換え、自分の回復の為の勉強と捉えて進んでやります。少しですが、考え方や気持ちの持ちようで、何かが変わっていく気がします。

僕の為に、マザーハウスの皆さん、ボランティアの方々、親身に接して頂き、誠に感謝しています。有難うございます。そして、多忙の中、こんな自分の為に時間を割いて手紙を読んで下さり、有難うございます。また、引受人の件、感謝しています。帰るところがある、という事は、こんなに有難く、心が温まるんですね。感謝です。お逢いできる日を心から願つて日々頑張ります。

獄での伝道

M 刑 S さん

信仰に関する書籍を送って頂き、それらを読むことは嬉しいのですが、それ以上に嬉しいのは、同室の人たちにも、それらに記されていることを話せることです。三月に転房があつて、新しい人たちと一緒になつたのですが、私が聖書の通読をすることで、信仰への質問をされることがあり、その会話の中で、送って頂いた書籍を取つて「罪」や「赦し」についても話せました。

獄での生活はどうしても、暇にまかせてつまらぬ会話に花が咲きがちですが、それよりもずっと楽しい（皆にもそう思っ

てほしい）福音を伝えられれば、一日がとても有意義に過ごせます。主がそのように導き助けてくださっていることに、ただただ感謝です。

人様からの評価

アギジャビヨ！さん

人生には、いい時もあれば、悪い時もあります。両方を経験すると、人様の評価が気にならなくなります。人様は無責任に何だかんだと言うものだ、という事が分かってくるからです。大切なのは、自分で自分をどう評価するか、だと思ひます。

いつでも自分の正義を忘れないでいる事。人様の言動で右に左に振り回されているうちは、まだまだ修行不足という事です。不運な時というのは、人間にはあるべきものなんです。不運・不幸を経験する事で、魂は鍛えられる。ですから、人様の言動にフラフラしてしまう時は、「自分はまだ苦勞が足りないんだなあ」と考えるのが良いと思います。

「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」という言葉があります。

人間は皆、愚者。だから経験が大切です。歴史だけから学ぼうにも限界がありますし、歴史だけから学べるのなら、生まれて人生を生きていく必要性もないと思います。

辛い思いや悲しい思いをする。その経験こそ大切だと思います。人に泣かされるから、泣かされる人の気持ちに手取るように理解できるようになる。人生は、辛い経験をしながら、大切な事を学ぶ場です。人はその為に生まれてくると思います。決して楽を求めて生まれてくるではありません。

人様の評価に傷つけられたり、喜んだりしながら、少しずつ自分自身の評価を重視できるように成長していく。その過程と学び、気づきが大切です。

ただ、だからといって、人様からの評価を全く無視するべきだというわけでもありません。何故なら、人様からの評価の中には、神からのメッセージが含まれている場合があるからです。人様の評価という形で、「自分の間違いや欠点に気づきなさい」という神の声が伝わってくる事もあります。

なので、人生を歩む上では、本物の評価と、悪意を含んだ評価を見分け、聞き分ける事が大切だと思います。

「しかし」で楽天思考

一兵さん

人が生きていく上で、辛い事、悩ましい事は本当に沢山あります。挫折や裏切り、大切な何かを失う事も。生きていけば少なからずあります。そんな時に、マイナスをプラスに捉える楽天思考がとても大切になってきます。

作家の川端康成はこんな言葉を遺しています。『しかし』という接続詞で、人間は悩みや行き詰まりから救われ、新しい希望の道が見えてくるものじゃないか。この、「しかし」を使って物事を考える方法は、楽天思考を身に着けるコツと言えるかもしれません。

例えば、「辛くて苦しい。『しかし』この経験を活かせば自分が成長できる」など。「しかし」という接続詞を間に挟むだけで、自然と物事の捉え方は逆転します。ネガティブな経験にも、ポジティブの意味合いを見出せるんです。

マイナスの出来事は、深く考えれば考えるほど、心に重く、伸し（のし）掛かってきます。心が乱れた時こそ、「しかし」で楽天的発想をしてみませんか？

日々、変化がない上に、複雑な人間関係の中で過ごす刑務所において、人それぞれ、悩み苦しみに事欠かないこの現状。心の負担を少しでも軽くし、明るく前向きな気持ちを取り戻す事で、辛い経験や悩み苦しみを乗り越えていきませんか？

苦労だと思えば苦しみになる

M刑 Tさん

人の世話は大変な事です、その世話を自分が出来る立場にあると思えば、幸せに思ふのです。

昔の人が、「苦労は買って出る」という言葉を残しているように、苦労だと思えば苦しみになるし、進んでやれば身体は自然と動き、種々勉強になります。



S・Tさん

人生、死ぬまで勉強ですよ。八十五年生きてきて、それが痛切に分かるのです。長い年齢を重ねて、初めて見えてくる事があるのだと感じています。不思議ですね。ですから、年齢には関係なく、身体を動かすことで気分が良くなります。

現在の生活環境の中では、四季の流れを目の前の刑庭にて、桜の咲く状況を見て感じられるだけでも有難い、と感謝している心境です。

意外な刑務所作業

A刑 Yさん

私はあと四か月ちよつとで今回の刑が終わります。なるべく今の工場で腐らず、満期日を迎えたいと思っています。

今の工場での作業は、延縄（はえなわ）（※釣り漁具の一つ）業の仕掛けの補修作業をしています。手がもう塩で荒れてしまつて、ひび割れがすごくて、もう痛くて大変な事になっていますよ。

また、工場の水がとても冷たい！お湯が出る工場もあるんですけどね。今の工

場は出ません。冷蔵庫いらずの水が出るんですよ、冷水です。夏でもとても冷たいので、その時はとても嬉しいのですが、やっぱり冬はちよつと…でも、美味しいですよ。もうミネラルウォーターは必要がないように思いますね。

エサがついたまま漁師さんが持ってくるので、このエサ取りが大変で…魚やワカメがくっついていきます。また、このくっついてる魚がですね、たまに私たちが朝食で食べるサンマ缶に似ているんですよ。それと、タコの柔らかく煮も食べるのですが、そのタコもくっついてることが…。

ですから、朝食にサンマ缶とかタコが出た時に、作業でそのエサ取り作業があると、もう最悪です。どうしても、エサと食事がシンクロしてしまうのですよ…(笑)。こればかりは仕方ないですけどね…(笑)。

それにしても、まさか刑務所で漁師の仕事をするとは思いませんでした。

あと、ホタテの養殖をする網の作業もあるんですけどね。まだそっちの方が汚くないので良いのですが、そっちの作業は工場の担当が決めるので、とても作業をするのが早い方がやっています。

職業訓練での処遇について

おたふくさん

北陸の冬は寒いとは聞いておりましたが、確かに寒いツー九州よりも平均気温が四度ちよつと低く、天気予報士が「今週は真冬にしては暖かい一週間になりそうです」と言っても、気温はオール一桁台といった寒さです。十度に達する日はほとんどありません。

さて、これから職業訓練に行く方とされている方、または興味を抱いている方の参考になればと思い、「処遇」について書いてみます。食事の次によく尋ねられるのが、処遇の良し悪しですが、はつきり言つて、刑務所は何処に行っても刑務所で、「楽」と感じることはほぼありません。細かい違いはあつても、刑務所であることには違いがないのです。職員も、親身になつて対応してくださる方もいれば、(刑務官としての権限を)ちよつと勘違いしているような方もいて、それも含めて刑務所なのだとつくづく思います。

要は、本当にやる気があれば、どのような環境でも真摯に取り組むことが出来るので、決めかねている方は、迷わず職業訓練に応募してみてください。昨日出

来なかったことが今日出来る喜びは、本当に気持ちがいいですし、大きな自信にも繋がります。

F 刑に来て一つだけ驚いたことがあります。雑居に扇風機が二台もついているのです。さらに、なんと独居にももれなく完備…ビビりますよね。私が元々いた刑務所では、雑居に一台でしたし、言うまでもなく、独居に扇風機などあるわけがありませんでした。南の方なのに…。

いつか、元いた刑務所にも扇風機が整備されることを祈りつつ、これからの生活に務めていこうと思います。

今回は、訓練内容について投稿したいと思えます。皆様が無事故無違反で過ごせますように。



S・Dさん

他の人の「たった一度」は、自分にとっては「終わり」

○刑 Tさん

私の○刑での受刑生活も、今年で十三年になります。日々、たくさん本を読んで学んでいます、その間にも社会での時間は進み、変化し続けています。

受刑生活が長くなるほど、刑務所生活が染み込んでしまつて、考え方や行動も消極的になりがちです、積極的に社会の人たちに発信をして、社会の人との縁を築いて学ぶようにしています。

受刑生活をするようになって数年間は、刑務官に言われたことを色々と気にして、受刑者を支援している団体と関わることあまり良いことではない、と感じた時がありました。刑務所も教育に力を入れるようになって、少しずつ変わってきました。しかし、社会の人が抱いている犯罪加害者のイメージや、元受刑者の社会復帰への道のりなど、教育プログラムだけでは、更生までの道のりが見えず、限られた場所と時間で変わっていくとは思えません。日々の考え方も、どのような情報に接し、誰から学ぶかによつて、大きく変わります。

私は現在、昼夜の衛生係として、計算係の担当をしています。

昼夜には、調査になる人以外にも、移送前、証人、余罪者など、他施設から入所する人たちも来ています。調査になる人たちの中には、自分と同期だった人や、以前に同じ工場にいた人たちもいます。そういう人たちから無理なお願いをされることもあります。一切、引き受けることはありません。断つても、「一度だけなのでお願いします」という人もいます。「たった一度だけ」だと思っているのですが、私にとっては、その一度が終わりなのです。

私自身、まだ身勝手な未熟なところが多くありますが、今後とも色々とお教示をお願いします。

必ず何らかの被害者がいる

虎の恋人さん

先日、当所で「一般改善指導・被害者感情理解指導」として、「全体講話」が実施されました。講師は、犯罪更生保護団体ルミナの代表、中江美則氏で、テーマは「深まる苦しみ ひろがる傷口」でした。

中江さんは、当時十八歳の少年が車を無免許で運転して、集団登校の列に突っ込んだ事件（二〇一二年四月、亀岡市）で、娘さんとお腹にいたお孫さんを亡くされた方です。

この事件は、無免許運転の車が暴走し、三人が死亡して、ケガ人も七人出ました。

中江さんは講話で、「俺の愛する家族を地獄に落としやがって。憎まずにはいられません。皆さんがこの立場やったらどう思われますか？逆の立場やったら」と呼びかけ、受刑者の僕たちに悲痛な話をされました。

「一人でも加害者をつくらなければ、犠牲者は生まれない」という思いで、去年から受刑者の再犯を防ぐため、更生支援を始められたそうです。「被害者遺族の苦しみを知ってもらうことで、犯した罪を憎んでほしい。被害者遺族の苦しみ、悲しみが伝わらないから、同じ事故・事件が繰り返される。二度と犯罪に手を染めないでほしい」と訴えておられました。そして、「今後も刑務所での講演を続けたい」と話されていました。

僕は、十七年前に、無免許で車を運転してひき逃げ事件を起こしています。幸いにも、命を奪う結果にはなりません

でしたが、足の骨折など、全治数カ月のケガを負わせました。

あれから十七年、僕は一度として無免許運転をしていません。事件を起こしてから自分の運転が怖くなり、友人や周りからも運転を止められています。今思い出してみると、事件を起こした時は、頭の中がパニックになり、無我夢中でアクセルを踏み、クラクションを鳴らしながら、逆走して逃げました。

だから僕には、中江さんの講演がとても心に刺さり、改めて考えてしまいました。何で逃げてしまったのか、逃げる理由・必要があつたのか、今更、何を言っても言い訳になってしまうのですが、逃げたことを反省しています。

交通規則・法律を守れない事が、施設での規則を守れない事に繋がっている。僕は考えてしまいます。そして、相手・他人を思いやれないから、自分勝手な考えで自分の都合の良いように考えて解釈してしまうのです。

自分がされて嫌な事は相手にもしないとか、常に相手の事を考えて、周りの状況判断をして行動するのも大切だと思うのです。施設でも、様々な規則・ルールがあり、それを守る事で、平穩無事に過ごせます。それを守らない人が多く、

自分たちの首を絞めています。規則・ルールを守ることは、自分を守る事に繋がります。

先日、他の工場ですが、工場から両面テープを倉房へ持ち帰り、後日の検査で発見された人がいました。刑務所にはやはり自分勝手な人が多く、周りの事を考えていないと思います。自分さえ良ければ、と考えているから、被害者の事を考えられないのだと思います。

僕も人に意見できる立場ではありませんが、今回の刑ですでに十年目となり、長い間、塀の中で生活していると色々と考えてしまうのです。

話が少し逸れましたが、今回の中江さんの講話で、改めて命の大切さ、被害者遺族の苦しみ、想いを感じられ、これほどの想いがあるのかと思ひ知らされました。これは実際にその立場になった人しか分からない想いです。そんな中江さんの心の叫び、想いが心に刺さるばかりか、もつともつと被害者遺族、周りの人の事を考えなくてはいけない、と改めて考えて強く想いました。

僕はとても弱い人間です。自分の事しか考えられず、また、周りに流されて、自分の意志を持たずに生きてきました。その結果が今の自分です。今まで、悪い

と分かっている、断れずに流されて犯した罪もあります。今回で最後にするために、もつともつと自分を見つめて、目を逸らさないでいきたいです。

僕たち受刑者には、被害者遺族の生の声を聴く機会は滅多にありません。僕は、刑務所として、もつともつとこの機会を増やしてほしいと思います。

生の声を聴く事で、改めて考えられるからです。

僕的には、こういった取り組みはとても大切だと考えます。

中には、自分の事件には被害者がいないと考えている人もいるかもしれませんが、必ず何らかの被害者がいます。家族や友達、職場の同僚なども被害者です。罪を犯して誰にも迷惑を掛けていない人は一人もいません。

日常から忍耐力をつける

G 刑 I さん

今冬期もインフルエンザが流行しているようで、特に愛知県は異常なくらい多いとニュースで聞きました。当所では、今

のところ、そんなにはないようですが、高齢受刑者は発症しているようです。

私も二年前にインフルエンザに二回もかかり、四十度以上の熱が続いていて、治ったと思ったら、二週間くらいして再びインフルエンザになって、一冬期で二回も発症するとは思わず、びつくりした思い出があります。

そのため、今は若い人と一緒に運動をして免疫力をつけるようにしています。ですが、三十代、四十代の人たちと同じ運動量をこなすのは、五十歳を過ぎた老体にはちよとしんどいこともあります。三十代との年齢差は二回り近いですが、四十代でも一回り近い年齢差があり、体力的にも、三十代、四十代に勝てないのは分かっています。ですが、そこで自分の気持ちに負けて、「年だから仕方ない」と思い、休んだり途中で止めてしまったりするのは、ただ楽な道を選び逃げているだけで、己自身に負けていることになると思います。

たかが運動、というのではなく、辛くしんどい時ほど頑張つて、一回でも二回でも限界より多くすることで忍耐力がつき、壁にぶつかった時でも、その壁を乗り越えることが出来るはずですよ。

これはどんな場合にも言えることだと思います。

社会で生活をしていく以上は、必ず何かの壁にぶつかります。例えば、会社で上司や同僚から嫌なことを言われて腹が立ち、会社を無断欠勤したり、仕事を辞めたりすることは、壁を乗り越えるのではなく、楽な道を選び、自分から逃げていくだけです。それは何の解決にもなりません。

忍耐力をつけることで、すぐ楽な道を探したり、選んだりするのではなく、その壁をどう乗り越えるか考える思考力が身に着くと私は思っています。

たかが運動でも、その中で耐え忍ぶ訓練をすることで、後々身に着くものが大きくなると思っています。

また、今の時期は朝晩気温が低いです。また、日課として、休みなく必ずヴィパッサナー瞑想をしています。

私の聖書の読み方

H 刑 O さん

聖書は毎日欠かさず読み続けています。が、もう全体の半分を過ぎ、出所に合わせて完読しようと考えていた計画通りに進んでいます。

今は、これまでのように、聖書を読み始めて難しく難しく考えて読むのではなく、ただ心を落ち着けて静かに読むことで、そこに湧き上がってくる思いを楽しんでいるようにしています。とても爽やかです。人間、怒つてばかりいないで、笑つて過ごすことで、心が豊かになって充実してくるよう、聖書も、難しくしかめつて読んで読むより、平静な心で読む方が、神も喜んでくださるのではないかと、とさえ最近思えるようになりました。

聖書があるのは

「集って荷を負い合う」ため

丁 刑 Y さん

M 神父様のもとで聖書を学び、キリストの教えが自らの血肉となるように日々の生活の中で心掛けています。私ですが、聖書とは何か、という根本的な問いについて、明確な答えを見い出せていないのも事実です。

今までは、聖書を読むことで心が洗われ、ほのぼのと安らいで、楽しくもあり嬉しくもあり、試練の際にも一筋の光を得てきましたが、そもそもは、神様の言葉と約束を受けた私たち人間が、そ

れに応える心と実践にこそ聖書の真意がある、と思うようになったのです。

もちろん、私も含め、聖書によって目の目が開かれ、人生や考え方が百八十度変わった、という人が沢山いるのですが、「受け取り方も様々だと思うのですが」、「悲しみを和らげたいから」とか、「今の問題を解決したいから」などなど、（聖書へ導かれるきっかけとしては色々あっても）、聖書の真意を理解するには、個人的理由に基づいた視点から読むだけでは伝わらない、と気づいたのです。

乱暴な言い方をすれば、聖書は「今の私」のための、いわば慰めの薬としてだけ書かれたのではないと思うのです。

では、何のための神の言葉なのか。何のための約束なのか…それは、神様の普通の言葉を軸にして、国境も民族も関係なく、一つの民として、兄弟姉妹として集る（あつまる）ためではないでしょうか。羨み、やつかみ、他人より先んじたい欲や迷信などによって散り散りになりがちな人間を、神様の言葉と約束という輪の中に集めるためではないでしょうか。マタイ十八章二十節にある、「数人が心一つに集るところに私は居る」ということなのだと思います。

やがてこの集まりは教会となり、今日に至るわけですが、私はM神父様との面会や、マザーハウスの皆さんとの繋がりを通して、マタイ二十五章三十五節から始まる言葉（「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であつたときに宿を貸し、裸であつたときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれた」）の重さを考えさせられ、集る（教会）とは、互いの荷を負い合うことである、という真理を学びました。

集りの目的地である約束の地に入るこゝとが出来るのは、良心の囁きに聞き入り、心を広く、特に苦しみ、棄てられ、世間から斥けられている他者に向かつて開く者、自分の利害や問題に閉じこもらない者なのだと思います。

このような「開かれた心の人」は、神様の言葉による集りに実際には入っていかなくとも（仲間との交流がなくとも）、実はすでに入っているのみならず、決して独りではありません。逆に言うと、集り（教会）のメンバーであっても、自分の安心や利のため、心の安らぎのためだけに聖書を開く、というような人々にとつては、聖書は自己中心のエゴイズムと無関心の道具、言い訳になつてしまふ、ということなのだと思います。

「集る」とは、自分一人が世界の中心ではない、ということを確認して、いかなる他人でも尊んで、互いの未熟さを赦し合い、多くの他者といつも関わり合うことだと思ふのです。性格の合わない者とも、気持ちの上で嫌な者とも、世間が見下すような小さき兄弟姉妹とも。何故なら、全ての人はただ一人の父、創造主によつて創造されたからです。

伝えたい事が上手くまとまらず、分かりづらい点が多々あると思いますが、「キリストに生きる」とは、「他者のために生きる」とは、などテーマを持つて過ごすことで、不思議なほど沢山の気づきがあるので、実りの多い生活となつていきます。

短歌

ア・イグレックさん

・経つ日ごと 頬にやさしき 春風は
・獄といへども 周（あまね）く吹きぬ
・やはらかき 光さしこむ 春の獄
・罪を重ねし 双手（もうて）かざさむ
・土の香の 鼻くすぐりて 春めくも
心ひそりと 冷ゆる夜もあり

塀の外のたより

― 出所者からのお手紙 ―

復活徹夜祭に洗礼を受けて

霊名パウロ・ガブリエルさん

洗礼前夜

洗礼を受ける事は、受刑中たつた一つの目標でした。毎日毎日欠かすことなく聖書を読み続け、マザーハウスから送られて来た「たより」や「百万人の福音」、「幸いな人」、また、文通相手の方からのお手紙を読み、いつしか洗礼を受けたいと本気で思い始めました。

月に一回は、集合教誨にて牧師先生から聖書を学び、それで足りない時には個人教誨を申し込み、洗礼について問いました。洗礼が何なのか、どうということな

のか、どうしたら受けられるのか。三十分という限られている時間の中、あらゆる質問をぶつけてみたけれど、良く分かりませんでした。それでも、「受洗したい」という思いは強くなるばかり。たよりで、「スタッフが洗礼を受けた」ということを読んだ時には、何も知らない私は、「出たらすぐにでも受けよう」と勝手に決めたくらいです。

でも、実際にはまだその時ではありませんでした。というのも、自分で決めて受けられるような、そんな簡単な事ではなかったのです。いくら、中で聖書を読んでいたとしても、それで「信仰がある」と言える、ということではない事を思い知らされたのです。

出てからは、毎週のように教会に通っています。刑務所の中では、キリスト教の集合教誨を申し込むと、自然とプロテストントの教誨となりました。私に必要なのは聖書通読であると感じていたのですが、すぐに溶け込んでいました。しかし、いま通っているのはカトリックの教会です。憧れの日曜日の「ミサ」に初めて出席した時には戸惑いました。何一つ分からず、なんとなく、「ミサ苦手」と思うようになり、イグナチオ教会の主聖堂の隣にある「ザビエル聖堂」に一人籠ることがお気に入りとなりました。

そんな中、マザーハウスの「マリアコーヒー」の販売で、他の教会に初めて行った時のことです。イグナチオ以外の教会に行くのも初めてならば、その教会の「ミサ」を受けるのも初めてで、何となく居心地の悪い思いをしていましたが、「ミサ」が始まってみると、同じ事を行っているはずなのに、その教会にはその教会の独特な雰囲気があり、聖歌の響きも教会の建物によって違うんだ、と気づいてからは、教会に行くのも楽しみになりました。

まだまだ、ずっと通っている方々の様には行かないけれども、少しずつ、ミサに出席することにも慣れ、顔見知りも出てきて、少しずつ楽しくなってきたり、ついていけるようになってきました。

昨年十二月に仲間が洗礼を受けました。本当ならば、その時に一緒に洗礼を受けたと思うはずなのに、なぜだか、自分にはまだ早いと思うようになってきていました。「自分が思うほどには、信仰に対して何も知らない」という事に気付いたからだと思います。「まだ、時ではない」と。自分では早く受けたいくせに、心では、別の自分が「まだ早い」と言っていました。もしかしたら、何かを恐れていたのかもしれませんが。

年が明けて最初の聖書勉強会にて、イグナチオの英神父様に、「洗礼を受ける

のなら個別面談をするよ」と言われた時には戸惑いました。「まだ早い」と思っている自分が居たからです。でも、「洗礼は受けますか？」と聞かれたとき、これも「時」なのかな？と思ひ、素直な気持ちで「受けます」と言っていました。

洗礼前夜の今日、今、正直な気持ち、心は落ち着いております。しかし、不安な気持ちも自分自身には隠すことは出来ません。毎日聖書を欠かすことなく読んでいても、いまだに自分に信仰があるとは思えないし、心の中で人を裁くし、文句を言うし、自分の行いや思いが主の御前に正しいとは思えないからです。そんな人間が洗礼を受けても良いのでしょうか？在所中、「早く洗礼を受けたい」なんて安易に考えていたのが恥ずかしいです。そんな簡単な事ではありませんでした。

それでも、明日、洗礼を受けます。自分の在所中の唯一の目標でした。それは、ゴールではなくスタートです。仲間や、周りの人達に守られていることを、助けられていることを心に刻み、驕り（おごり）高ぶることなく、傲慢になることなく、謙虚に、人を自分のことの様に愛せるように、努めていきたい。

洗礼直後

先ほど、大勢の信者さんが見守る中で、復活徹夜祭のうちに無事に洗礼を授かることが出来ました。

自分は、マザーハウスに来てからカトリックを知り、受け入れ、今があります。だから、聖書以外のことは全てが初めての経験であり、ミサや仕来り（しきたり）など、戸惑う事ばかりでした。信者さんの方々との交わりでは、とても良くして頂き、洗礼を受けるにあたって、たくさんのお祈りやアドバイス、勧めなどを頂きました。

「洗礼を受けなさい。変わるから」と、たくさんの方に言われましたが、洗礼直後の今現在、「よく分からない」というのが正直な気持ちです。前回は、洗礼式の時に涙している人もいました。



自分は、洗礼式そのものよりも、むしろ、必ず来てくれているであろう仲間たち、ボランティアの方々、マザーハウスに繋がりのある方々の事を思ったら、式の前から涙が出そうになっていました。こらえるのに必死でした。

そもそも、自分の人生は孤独との闘いであり、今まで、人に優しくされていて、も気付かず、自分勝手な捉え方をし、その優しさを台無しにしてきたのだと思います。色んな人に出逢えて、「マザーハウスに来て良かった」と本気で思いました。

自分は、「ザビエル聖堂」を独り占めして籠るのが大好きです。そもそも、自分のイグナチオ教会での本気の祈りは、出所後の真夏、蚊に喰われながら、汗まみれで独り行ったのが始まりです。それからは、何かある度に、そこに祈りに行く習慣ができました。

今日も、短時間ではありましたが、洗礼前にザビエル聖堂へ行き、洗礼を受けてさせて頂く事について、報告とお願いをしてきました。あいにく、先客が二人、居りました。でも、自分が入った途端に譲ってくれ、祈る時間を下さいました。そういう一つひとつの物事に導きを感じます。

そして、本気で祈る時、何かに包まれているようになり、体温が上昇していくのが分かります。心拍数が上がることもあります。

今日の洗礼式で、信仰告白の時に、「仲間へ届け」とばかりに声を出してみました。仲間へ届かなくても、「天まで届け」とばかりに声を出しました。

私は元々、二十二歳の時にがんの手術を受け、「声が出なくなるかもしれない」と医者に言われていました。声帯も半分無いのです。だから、声が出ているというだけで、恵みです。出さなければ損です。そして、それ以上に、自分の本気度をあらわしたかったです。天にも仲間にも。

その時、急に体温が上昇し始め、心拍数も上がっていました。恥ずかしいからではありませんでした。心も落ち着いていたし、恥ずかしかったら、声も出ないはずでした。

一生に一度のことであり、そして、もう戻れない。そう考えると真剣に声が出ました。

今までの人生では、恥ずかしいから、「右にならえ」して声もあまり出さずにいました。

でも、それでは変わりません。変わることが出来ない。何のためにマザーハウスに来ているのか、何のためにキリストを求めているのか、分からなくなってしまう。自分は変わりたいし、変わらないといけない。今、これを記しながら、今日の洗礼を噛み締めております。

私を受け入れてくださった神に感謝します。イエス様に感謝。来て下さった方々に感謝。祝つて下さった方々に感謝。皆さんに出逢えたことに感謝。全ての恵みに感謝。

マザーハウスに来て、たくさんの経験をして、たくさんの人に出逢い、たくさんの優しさに出逢ったことで、今の自分が平安に過ごせています。全ての事に感謝です。今は、キリストの故に、独りではない。孤独ではない。心から、全ての恵みに感謝します。どうか、主の平安が皆様の心を、人生を、道を包み導いて下さいますように。マザーハウスを、故あって去った仲間たちの事も、主がお救い下さいますように。

こうして皆さんが来て下さったのも、全ては「繋がりに」あつての事です。自分自身、勘違いすることなく肝に銘じ、甘えることなく歩んでいきます。

二〇一九・四・二〇・

理事長の奥さんによる

Lovely DAYS

最近、疑問に思うことが二つあった。

一つは、「孫が生きがい」の祖父母が自宅に遊びに来た時、「K（長女）の鼻はいつも天井を向いているな。目と目の間にもう一つ目が入りそうだね」と言われた。

もう一つは、当事者の男の人に、「『Aさん（私の名前）つてすごい』って思ったことがあつたんですよ！だって、受刑者のためのミサに普段着で行くんですよ！しかも、五十嵐さんの奥さんなのに、正装もせず普段着でーすごいですよ！」と言われた。

あの…、それって褒めてる？

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

自閉症スペクトラム障害

気持ちの良い日が続いております。皆様、いかがお過ごしでしょうか？

四月十七日、再びマリアカフェへ行ってきました。新しい方がお見えになり、新生活の準備をされていました。早速、お話も伺ってきました。

皆さん出所後一週間は、興奮状態が続き、落ち着かないようです。受刑者・元受刑者の方にとって、出所後どのように過ごすかは、その先に直接的影響を与えると思います。

そのため、出所後の身体の状態を聞かせていただき、まずは必要な医療へと繋げ、健康に留意し、通常生活に慣れていくような、お手伝いをしたいと考えています。

アスペルガー症候群についての質問を頂きましたので、今号で取り上げたいと思います。

アスペルガーについて説明する際に、発達障害の一つの症状であることをまずはお伝えしたく思います（「発達障害」は、生まれつきの特性であり、病気ではありません）。大きく分けると、次のようにタイプが分けられます。

- ① 自閉症
- ② アスペルガー症候群
- ③ 注意欠如・多動性障害（ADHD）
- ④ 学習障害
- ⑤ チック障害
- ⑥ 吃音（症）

このうち、①と②が、「自閉症スペクトラム障害」（ASD）と呼ばれるもので、今回はこちらに焦点を当てて、まとめました。

自閉症スペクトラム障害（ASD）

大きな特徴が三つあります。具体的には、相互的な対人関係の障害、「コミュニケーション」の障害、興味や行動の偏り（こだわり）が現れます。ASDの人は、最近では、およそ百人に一人二人の割合で

みられると報告されています。男性は女性より数倍多く、一家族に何人かみられることもあります。

症状は、一歳を過ぎた頃から現れ、人の目を見ることが少ない、指さしをしない、他の子どもに関心がない、などの様子がみられます。対人関係に関連したこのような行動は、通常の子どもでは急速に発達すると異なり、ASDの子どもでは、はつきりしません。

保育所や幼稚園に入ると、一人遊びが多く、集団行動が苦手など、人との関わり方が独特なことで、気づかれることがあります。言葉を話し始めた時期は遅くなくても、自分の話したいことしか口にせず、会話が繋がりにくいことがしばしばあったり、また、電車やアニメのキャラクターなど、自分の好きなことや興味のあることには毎日何時間でも熱中する一方で、初めてのことや、決まっていたことの変更が苦手で、馴染むのになり時間がかかったりすることがあります。

成長するにつれて症状は変化し、人それぞれに多様化します。思春期や青年期になると、自分と他の人との違いに気づいたり、対人関係が上手くないかということに悩んだりして、不安症状やうつ症状を合併する場合があります。就職して

から初めて、仕事が臨機応変にこなせないことや職場での対人関係に悩み、自ら「障害ではないか」と疑って病院を訪れる人もいます。

ASDのための治療薬は、現時点では存在しません。しかし、社会生活を送る中で、人間関係などでの困り事が深刻で、躁鬱などの二次障害が起きている人には、二次障害用の治療薬が処方されます。施設内に同症状の仲間がいる場合には、後述の対応方法を参考にしてください。自身がそうであると認識されている方も、日常をより過ごしやすくする工夫を考えたり、仲間に症状について伝えたりする際などに、参考にしてみてくださいね。

ASDの人に向いている職業や職種

- ① ルールやマニュアルがある
↓ 経理・財務、法務・情報管理、コールセンターなど
- ② 専門分野の知識を活かせる
↓ プログラマー・テスター、テクニカルサポート、電化製品等販売員など
- ③ 視覚情報の強さが活かせる
↓ CAD（キヤド）オペレーターなど

対応方法

① 抽象的な指示を避ける

↓「いい感じにやっておいて」「こんな風にして」など、抽象的な指示を出す、どうしても良いのが理解できません。そのため、「いつまでに」と数値を示し、やり方のマニュアルとともに見せて、実際にやらせてみる必要があります。

② 臨機応変な対応を求めない

↓「(1)に書かれてあることが終わったら、次は(2)のことをする」と、決められたことをあらかじめ書き出して、対応マニュアルを作成しておくことも良いでしょう。

③ 音・肌触り・光による影響を避ける

↓パソコンの音や空調の音に敏感な人、肌触りや光に敏感な人がおられます。このような場合は、過敏症専用のイヤホンや準備するなどの対応が必要です。刑務官が気づいて、配慮する義務があると思います。

④ 完璧さを追求しすぎない

↓ASDの人は、仕事に対して、常に全力投球されがちです。全てのことに對して、一生懸命にしすぎてしまい、手の抜き方が分からないのでミスが出てきます。

また、集中しすぎて時間感覚が分からなくなることもあり、「時間指示が守れない」と言われることがあります。さらには、疲れ切つてしまい、回復に時間が掛かりすぎる傾向にあります。そのようにならないためにも、常に時計で時間を確認させて認識させる方法をとる、など、そのような対策をしないといけません。

ただ、例えば、同室者にASDの方がおられ、生活を共にする場合は、双方、相手のことが理解できないために問題が生じることもあるのではないのでしょうか？必ずしも、ASDの症状が相手にとって分かりやすくあらわれるとは限りません。分かりにくければ、知らないまま過ぎていくことでしょう。しかし、ひとたび何かトラブルが起きてしまった場合は、当事者自身、または周囲の者に責任追及が及ぶ可能性があります。

そのため、同室者や作業仲間によいような方がいらつしやる場合は、対応方法を確認しておかれると良いと思います。

★参考：厚生労働省 みんなのメンタルヘルス (https://www.mhlw.go.jp/kokoro/now/disease_develop.html) (検索日二〇一九年四月二十二日)

ご支援 本当にありがとうございます！

3月16日～4月15日の寄付金

合計：292,997円

(内 愛のプリズム宣教基金：5,000円)

お知らせ・編集後記

聖書の寄贈が一定数寄せられましたので、希望する受刑者の方にお送りします。ご寄贈くださった皆様、本当に有難うございました！

なお、希望者の方は、次の2点にご注意ください。①お送りするのは、郵送料(800円)を負担してくださる方が対象です(今年度の会費を納入済かどうかを問いません)。②聖書は新品ではなく、また、「〇〇訳」「旧約付き」等の条件も指定できません。以上の2点をご了承の上、ご希望の方は、「聖書希望」の旨のお手紙と一緒に、800円分の現金書留もしくは切手をお送りください(先着順となります)。

今月号もお読みくださりありがとうございます！それでは、来月号もお楽しみに！

マザーハウス編集局

行事予定

▼5/16(木) 10:00～

横浜市役所にて、再犯防止推進計画策定検討会

▼5/18(土) 13:30～

早稲田大学8号館にて、シンポジウム「再犯防止に向けた取り組み」

▼5/20(月) 18:00～

マリア・カフェにて、APS研究会

▼5/25(土) 14:00～

聖イグナチオ教会内 岐部ホール404号室にて、対談「更生保護について」(VIPプリズム)

▼5/27(月) 10:30～

東京学芸大学にて、講義(人権教育)

▼5/28(火) 13:10～

愛知学院大学にて、講義「マザーハウスの取り組み」

▼5/29(水) 16:00～

名古屋合同庁舎にて、名古屋矯正管区長と面談

▼5/30(木) 16:20～

岐阜保健大学にて、自己管理と社会的規範

▼6/9(日) 10:30～

カトリック郡山教会にて、講演「人生を変える出会いの力」

▼6/11(火) 18:00～

龍谷大学 至心館1階にて、APS研究会

マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）

＊製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX：03-6659-5270

メール：maria_coffee@motherhouse-jp.org（QR →）

価格：粉200g または 豆200g …… 900円

カフェドリップ10g（1回分）… 100円



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま（順不同）☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック中和田教会／カトリック布池教会／カトリック東山教会／カトリック浜松教会／カトリック新子安教会／カトリック菊名教会／カトリック碑文谷教会／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／クリスト・ロア宣教修道女会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック松戸教会／カトリック戸塚教会／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／日本カトリック神学院／ドン・ボスコ社／聖母訪問会



☆ルワンダの祈り☆



ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

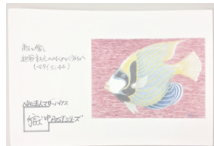
獄中POSTシリーズ

＊獄中ボランティアの方の絵画と文字を
ポストカードなどに印刷する企画です。

FAX：03-6659-5270

メール：motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org（QR →）

入手方法：会員の皆様や、ご寄付（5000円以上）くださった方々へ、また、
その他の機会等で感謝を込めてお贈りさせていただく予定です。
（在庫状況により、お贈りする内容は異なります。デザインはランダムです。）



＊デザインの絵画部分を選んで購入されたい方は、講演会や郵送にて
販売しておりますので、お気軽にお問合せくださいませ。

（ポストカード／封筒は3枚で800円、便箋は30枚で800円）

ホームページ：https://npo-motherhouse.amebaownd.com/（QR →）



マザーハウスたより5月号

2019年5月15日発行 発行責任者：五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-17-102 NPO 法人マザーハウス



↑ 理事長 facebook ↑ 活動日記ブログ ↑ MLPのメール ↑ オンラインショップ

ラウレンシオ（便利屋業）

＊元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、
掃除などをさせていただきます。お見積もりは無料です。

TEL：080-4614-8508

FAX：03-6659-5270

メール：lawrance@motherhouse-jp.org（QR →）



古本募金（きしゃぽん）

＊書籍やDVDを下記送り先にご寄付いただくと、マザーハウスに還元されます。

送り先：〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

マザーハウス きしゃぽん係

（マザーハウス事務所に送らないようお気を付けください）

TEL：0120-29-7000

カウンセリング

＊当事者やご家族の方を対象に、専門家がカウンセリングを行います。

※価格は別途かります。

メール：counseling@motherhouse-jp.org（QR →）



お問合せ

いつも本当にありがとうございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL：03-6659-5260

メール：info@motherhouse-jp.org（QR →）

ホームページ：「NPO マザーハウス」でご検索ください。（QR →）



ご支援

☆正会員（一口5000円／年） ☆賛助会員（一口3000円）

☆社会復帰支援（ご寄付）を随時募集しております。

→お振込み口座名：

特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ】マザーハウス

郵便振替口座：00170-0-586722

みずほ銀行：新宿支店 普通口座 2376980

☆洋服等の物資の送付先：

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-18-1F マザーハウス

（TEL：03-6659-2110）